

I 実践

1 研究主題

一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「確かな学力を持ち、たくましく生きぬく創造性豊かな実践人を育成する」ことを受け、めざす児童像に「豊かな心」「強いからだ」「考える力」の3つを掲げている。それらの目標具現化のために、「元気っ子プラン」を立ち上げ、「徳育・体育・知育」の3つのプロジェクトを組織し、全教育活動に取り組んでいる。

本校の人権教育目標として、「好ましい人間関係をつくり、誰に対してもわけへだてしない子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、お互いに認め合い、助け合う子どもの育成」を設定している。本校は各学年1～2学級で、特別支援学級は2学級ある。通常学級と特別支援学級の関わりや異学年との関わり、また学級内での児童同士の関わりの中で、互いを理解し、尊重していこうとする態度の育成が必要だと考えられる。そこで、この主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 一人一人を大切にしたい学級経営の充実・元気っ子コーナーの設置
- イ 学習意欲・考える力を引き出すための学習指導の実施・読書活動
- ウ 互いのよさを認め、助け合うための集団活動の実施

2 研究実践

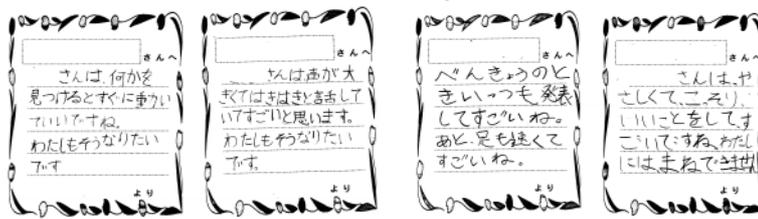
(1) 一人一人を大切にするために

ア 学級経営のなかで

本校は各学級で学級目標を掲げ、学級一丸となり達成に向けて取り組んでいる。一人一人を大切にし、心の居場所となる学級経営を心がけ、児童への言葉がけや学級づくりに努めてきた。特別支援学級の児童がいる学級では、その児童が安心して行き来ができるように情報を共有し、あたたかい雰囲気作りに努めている。また、帰りの会で、今日頑張っていた人や素晴らしいところ、感謝の気持ちなどの発表をしている。

イ 元気っ子コーナー

本校では、一人一人を大切にするために、一人一人のよさや素晴らしいところ、また感謝の気持ちなどを記入したカードを掲示している。各学年・学級で工夫して作成し、機会のあるごとに重ねたり追加したりしている。



(2) 学習意欲・考える力を引き出すために

ア 学習指導の面から

学習内容が「わかる」事は児童の学習意欲を高めるために重要なことである。今年度は、全教師の相互参観・研究協議を行い、わかる授業の工夫改善を図った。また、昨年度は算数の支援指導の教師がいたが、今年度は学級減のため支援指導の教師がいない。そこで算数の学習においては、担外の教師が支援指導を行っている。

イ 読書指導から

本校では朝の時間に隔週で読書タイムを設定している。図書室で借りた本や自分の家から持ってきた本の他に、学級文庫を充実させ、読書環境を整えている。図書室前の廊下には、読んだ冊数ごとに個人名のカードが掲示され、意欲にもつながるように工夫している。また、学級でも読書意欲を高めるために工夫している。

(3) 互いのよさを認め合い、助け合う態度の育成のために

ア ふれあいタイム

本校では、毎週木曜に昼休みを長くとり、ふれあいタイムを設けている。異学年縦割り班で遊んだり、奉仕作業を行ったり、学級全員で遊んだり、学年で遊んだりしている。

イ 磯遊び集会

会瀬海岸に近い本校では、7月に磯遊び集会を実施している。縦割り班で海岸清掃を行う。その際、地域の方や幼稚園の園児も共に活動する。その後、磯で生き物の観察を行ったり、学級で砂の芸術作品を作ったりした。

ウ 会瀬っ子祭り

11月に実施された会瀬っ子祭りでは、3年生以上が学級でパビリオンを開き、来てくれた人をもてなした。午前中は学級ごとに工夫をし、役割を決めて活動した。幼稚園児や保護者、地域の方もたくさん来校し盛況だった。午後からは、PTA主催のコーナーや地域の方による昔遊び、スポーツランキングなど、個々が自分の力を発揮したり、楽しんだりできる場を設けた。

3 成果

児童が互いを見つめる機会を設けたことにより、一人一人を大切にし、互いの良さを理解し、思いやりの気持ちをもって接したり、認め合ったり、助け合うことができるようになってきた。また、児童一人一人が他の人に自分を認められた実感や満足感をもつことができ、安心して学習や活動に取り組めるようになり、学級、学校の中での自分の存在感をもつことができたと思う。

II 課題

児童一人一人が互いを認めることができるようにはなってきたが、まだ互いを素直に認められなかったり、自分本位になり協力できない場面もよく見られる。児童の発達段階に応じて、積極的に一人一人を認め、誰でもあたたかく受け入れられる雰囲気づくりを、さらに心がけていきたい。特別活動や行事では、一人一人が認められる場面が多いので、学習においても一人でも多くの児童が認められ、満足できる機会をもっと設けていきたい。